

8日（土）に、上宮田小学校体育館において、2019年度海洋教育子どもサミット in みうらが開催され、児童・生徒、保護者等約300人が参加しました。今回は、初めての試みとして、初声中学校の生徒が司会をしてくれました。

開会式では、星野当研究所代表理事（副市長）の挨拶に続き、吉田三浦市長にご挨拶をいただきました。

その後、市内の全小中学校および県立海洋科学高校の児童・生徒が、ステージ発表やポスターセッションを行いました。

最後に、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの田中センター長から「小中学校くらいまでは、五感を使った経験が重要である。また、海洋プラゴミ等環境について考えるということは、“自分はどう生きるべきか”、“社会をどうしていくか”という問題につながるものだ」というまとめをいただきました。

会場校の上宮田小学校の先生方をはじめ、このイベントにご協力頂きましたすべての皆様に感謝申し上げます。各学校の発表内容は次の通りです。



### 三崎小学校4年生 「海の生き物について調べよう」

一人ひとりが調べた海の生き物の中で、クラゲとタツノオトシゴについて身振り、手振りを交えて説明しました。クラゲに刺される様子やタツノオトシゴの出産の様子などを、その生物になりきって実演していました。



### 岬陽小学校3年生 「マグロのひみつ」

半年かけて学習してきたマグロの流通について発表しました。実物大のマグロの絵を用意したり、マグロを切る機械の模型を作ったりして、分かりやすく説明していました。マグロの流通にかかわる人たちの「おいしいマグロを食卓に届けたい」という思いが伝わってきました。

### 名向小学校4年生 「青木熊吉と海」

昔実在して、「三崎の熊さん」と呼ばれた伝説の漁師、青木熊吉について調べたことを発表しました。臨海実験所やはえ縄漁法などとも深いかわりがあることが分かったそうです。青木熊吉さんの人物像にも触れた発表でした。



### 南下浦小学校3年生 「伝えよう！～三浦の海の魅力～」

「近くの海」と「遠くの海」の2つのグループに分かれて発表しました。「近くの海」のグループは、磯観察の様子、カニについてなど、「遠くの海」のグループは、マグロの水揚げなどについて説明しました。絵や写真を使って、自分たちでつくったウミモンカードも掲示されていました。

（文責 事務局長 渋谷）